

研 究 所 通 信

2025 年はる号
藤田佳代舞踊研究所

見に来てください！

創作実験劇場

3月15日（土）18時開演 神戸ファッション美術館オルビスホール

出演 岸本穂花 森暖乃 住谷蒔 江木美波 吉川杏奈 高橋陽奈 吉川菜々子 村上美羽 菊原麻衣花 稲益夢子 田中文菜
山本奈央 板垣祐三子 石井麻子 向井華奈子 かじのり子 菊本千永 金沢景子
作品 この世にあるものたち 諸行無常 マクベス わたしたちそんなこと言っていない 袖すり会うも
わたしのうまれたところ 月と 光の在処—闇 蠢く—

12月26日から創作実験劇場のリハーサルが始まりました。今年の実験劇場は、どうなるのかな、うまくいくかなと常に緊張を持って迎える初日です。リハーサルを重ねる毎に作品の完成度が高まっていく充実感。この充実感があるから長く続けてこられたんだろうなあ、とふと考えました。多くの方々に見ていただきたいです。ぜひお越しください。
作品解説と出演者からのコメントです。

この世にあるものたち

作舞 藤田佳代

ヒト

メタセコイヤの寿命は2000～3000年だそうで、ヘール・ボップ彗星は約2550年をかけて太陽の周りを回るそうです。花や鳥の命は一つの季節だけのものもあれば、何年にもわたるものもあります。私の命は80年くらいでしょうか。

長さ、活動も異なる命たちが同時に存在する。これは大切に貴重なことだな、と思いながらヒト役を踊らせてもらっています。 かじのり子

メタセコイヤ

世界最大であり1000年以上の寿命の木だそうです。想像だにしない時間を生きるわけですね。

メタセコイヤはあたりまえに1000年を生きているのですが、私には1000年もの月日はなんて孤独なんだろうと思わずにはいられません。

ゆっくりとゆったりと、ただそこに在る命を表現できたらと思います。 向井華奈子

ヘール・ボップ彗星

45億年以上前に生まれたとされるヘール・ボップ彗星。生命が豊かに生きる地球からは遥か彼方の宇宙に存在している星ですが、約2500年毎に地球に近づく時があるそうです。近づいてもなお遠く孤独な星ですが、一体どんな気持ちで地球をそして地球上の生命をみつめているのか…。嬉、楽、羨、寂、あるいは悲しさもあるかもしれません。いくら想像しても余りにも未知の世界ですが、いかに踊りで表現したらよいか、試行錯誤を重ねました。 山本奈央

1楽章 夏

アリ

私はアリ役をします。アリ役では小刻みに歩くシーンがよくあるので、その一步一步をアリになりきって丁寧に演じたいです。 岸本穂花（小6）

コマドリ

「幸福を運ぶ鳥」コマドリ（駒鳥）森の中を飛び回り、今日も幸せな日になりますように！と願います。

石井麻子

2楽章 秋から冬

オミナエシ

オミナエシは一本の茎にたくさんの小さくて黄色い花が咲きます。それを、三人で回る動きを多くすることで表現しました。そして、オミナエシの花言葉はどれも花の優雅で暖かな心を反映しています。だから私達も優雅に踊りきることができるように頑張ります。また、踊りの中には雲やメタセコイヤなどのオミナエシ以外の「この世にあるものたち」と動きを合わせて踊る場面もあります。他の動きもちろんですが、オミナエシだけで踊るとき以上に丁寧に踊ります。 吉川杏奈（中2）

役に入り込んで踊れるようにたくさん調べて常にオミナエシが頭の中にあるように意識して練習をしました。オミナエシは「女郎の花」と呼ばれていて、美人を圧倒させるほど美しいという意味だそうです。2幕にはたくさんの役が登場しますがその中で凜と咲いているように見えたらいいなと思います。 江木美波（中2）

雲

雲の形は、いつ見上げても違う形をしています。そんな様々な雲のように踊りで表現できるように頑張ります。

高橋陽奈（高2）

3楽章 春

ムラサキカタバミ

ムラサキカタバミには、「心の輝き」「喜び」といった花言葉があるようです。夜に閉じていた花びらが朝になると目覚めるように花びらを開く様子も踊りで表現されています。小さな花ですが、コンクリートの隙間でも咲くことができる強さ。花が咲く喜び、踊りを見ていただける喜びを込めて踊ります。 村上美羽（大4）

ハイタカ

ハイタカは全長 30～40 cmの猛禽類です。私は1 の場面でコマドリも踊りますので、同じ鳥でも大きさや飛び方がちがうところを表現したいです。ジュニア生と同じ役で踊るのが刺激になっています。

板垣祐三子

諸行無常

作舞 金沢景子

「諸行無常」は、多くの方がご存知のように仏教用語です。あらゆる現象は移り変わっていくという意味ですが、これは過去現在未来という時間の経過によるものです。

時間の流れと言うのは人間の意識がつくった概念かも知れないと考えると、無常を違う捉え方ができるかもしれないと思いました。

今回は作曲演奏を鍵盤ハーモニカ奏者の織野ナオさんに依頼しました。真摯に向き合っていたき、たくさんのアイデアを提示してくださいました。結果、鍵盤ハーモニカではない楽器を使って演奏していただきます。ミュージシャンならではの発想に助けていただきおもしろい音楽になっています。一瞬で消えてしまう生演奏、踊りを共に体感していただけると幸いです。

マクベス 私たちそんなこと言っていない

作舞 菊本千永

世阿弥とシェイクスピア。私にとって彼らは、彼らをまつる神社があれば、毎日でも詣でたいくらいな存在です。

ですから、今回の作品ではシェイクスピアの「マクベス」の新解釈を・・・などという大それたことを考えているわけではありません。三人の魔女とマクベスの関係が、SNS の情報とそれに踊らされる人の関係にも見える、と考え、シチュエーションを借りてみました。「眠りはないぞ。マクベスは眠りを殺した。」そしてこの秀逸な文章も。

袖すり会うも

作舞 寺井美津子

最近、人とふれあう事の大切さを痛感しています。

以前から、小石同士がぶつかり合って丸くなっていくように、人も人とぶつかり成長していくような感覚を持っていたのですが、学生達は、連絡も話し合いも、面と向かわず、スマホで済ませます。もちろん、相手の時間を邪魔せず、要件を端的に伝えられて便利なので、私も大いに利用しています。ですが、相手と話していると、相手の様子で言葉の意味が違ってくるし、何気ない一言で、思いもしない発想が生まれたりもします。私自身、ダンスを選択した最後のだめ押しは、友人達との馬鹿話の中での言葉だったなと思い返します。

今回踊ってくれる若い出演者達が「袖すり会うも多生の縁」ということわざを知らなかったことはショックでしたが、多生ではなく多少の縁を感じて踊ってもらえればと思っています。

わたしのうまれたところ

作舞 向井華奈子

今回のテーマは『とおる』 一粒の命がどこからかやってきてこの世界にとどまって… タネかタマゴか…

わたしがここへ来るまでの この世界への通り道 つぎのどこかへの通り道

舞台美術を和紙アーティストの江藤恵美さんにお願ひしました。素晴らしいアイデアと作品をありがとうございます。

月と

作舞 稲益夢子 菊原麻衣花

比べたてしょうがない。すっぽんも、わたしたちも・・・！

光の在処—闇 蠢く—

作舞 かじのり子

加川広重さんは宮城県の水彩画家です。

4 年ほど前に画廊で見た加川さんの作品「2011 3 12 夜明け前」に衝撃を受け、舞踊作品にしたいと思いました。

震災直後、夜明け前。復旧、復興から程遠いにも関わらず、瓦礫の山々の下からほのかに洩れ出る光に、光り出さずにはいられない人の命の強さを感じました。それは30 年前の神戸でも感じた、立ち上がりたい、一歩でも前に進みたい、生きたいという光と同じように感じられました。

今回は「光の在処—闇 蠢く—」を発表します。中学一年生から大人までの群舞です。何かが起こる前の不穏な空気を踊ります。が、やはりそんな闇の中でも光は現れるのでは、という思いから作舞しました。（「2011 3 12 夜明け前」は加川広重さんホームページでご覧下さい）

ありがとうございました。

菊本千永モダンダンスステージⅥ 2024 年 11 月 16 日（土） 神戸ファッション美術館オルビスホール

雨の庭で まつろわぬものたちのまつり

（出演）岸本穂花 森暖乃 千原芽希 安岡珠希 住谷路 吉川杏奈 高橋陽奈 村上美羽 菊原麻衣花 稲益夢子

山本奈央 板垣祐三子 石井麻子 向井華奈子 かじのり子 金沢景子 菊本千永

（舞台美術）高濱浩子

菊本千永モダンダンスステージⅥを無事に開催することができました。出演者、スタッフ、見に来てくださった方々に心からお礼を申し上げます。舞台の感想を聞くことは、舞台後の一番の楽しみです。「まつろわぬものたちのまつり」について、本当にたくさんの感想を言っていただきました。これはこう思ったけど、この解釈で合ってる？とか、全 3 楽章の中で、私はこの楽章がいい、いや私はこの楽章だ、と見終わった後で「まつろわぬものたちのまつり」でたくさん話し合ったよ、等々。この作品は今まで生きてきた全人生の知識を総動員、フル稼働してつくりあげたと自負していたので、心の底から報われたと思いました！

3 月の創作実験劇場で 2 楽章の「土蜘蛛」を作舞し見ていただいたのですが、その時点では全体の構成はできていませんでした。振付が始まる 8 月までは、焦燥の毎日でした。何もできん！何も浮かばん！音が決まらん！

そんな日々、舞台美術を描いて下さった高濱浩子さんの存在が大きかったです。高濱さんは画家で、高校の同級生です。舞台の衣装を描いて下さったこともあり。いつか舞台の装置を描いてもらいたくて、それならサイタルができるこの機会しかないだろうと、依頼して引き受けてもらって、生半可なことはしてはならない、と。何もできなくて何も思い浮かばない苦しい日々を苦しいまま踏ん張って過ごして、ついに作品の構成が浮かび上がりました。

振付が始まる前日、リハーサルの日々、高濱さんが絵を描きに来てくれた日と装置に仕上げた翌日。本当に幸せな日々でした。

いつも思うことですが、舞台は一人ではできません。本当にたくさんの方々のご協力をいただきました。

アカデミー賞を受賞した俳優が、お世話になった人の名前をずら〜と呼びかけますが、私もそれをしたい！しかし紙面が尽きてしまいます。

本当にありがとうございました。一人一人の顔を思い浮かべてあなたに！

菊本千永